

印西大師 番外 名内・東光院

1 名称 (No.164)〔手引鏡：東光院〕

2 場所 白井市名内545 東光院

小名内・嘉兵衛前から道程約1,590m

GPS座標 35.83020529485822, 140.06212238339273

3 由緒 真言宗豊山派 慈眼山 観音寺 東光院
名内村字屋敷回にあり 真言宗にして興福院未
なり 十一面観世音を本尊とす 由緒不詳 檀徒
267人 (印旛郡誌)

4 御堂 大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体
あり。その並びにもうひとつ大師堂があり、そ
の中に丸彫りの御大師様が1体あり。本堂前
には立派な弘法大師像もある。

5 境内 大師堂のまわりは本堂のほか、銀杏や楓が多く紅葉がきれい。左奥は墓地。

6 写真 (2023.11撮影)

(1) 第66番の御詠歌のある大師堂



大師堂



御大師様



大師堂



大師堂



5堂あるうちの一番右の御堂



第66番の御詠歌



本堂前の弘法大師像



5つ並んだ御堂と本堂



山門と本堂

(2) 不動明王と一緒の大師堂 (右から3つ目の御堂)



大師堂



御大師様



不動明王(左)と御大師様(右)

(3) 弘法大師像 (本堂前)



弘法大師像



弘法大師像



本堂と弘法大師像

7 情報

(1) 御大師様

東葛印旛大師第66番の大師堂にある御大師様の台座には、天保16年(1845年)と文久2年(1862年)の銘があるそうです。(白井町調査報告書)

(2) 東光院の木造観音菩薩立像

本像は東光院の本尊として安置されているものです。割矧造(わりはぎづくり)で像高53.2cmを測ります。玉眼を嵌入し、全身を漆箔仕上げとします。頭をやや大きめに作り、腰以下の衣文表現などの特徴から15世紀頃の製作と見られます。本像は全体に良くまとまり、衣文表現も巧みで、市内に残る室町時代の尊像の中でも大型の佳作として白井市の歴史上重要なものです。



※「割矧造(わりはぎづくり)」とは、1本の木からそのまま仏像を製作しますと長い年月を経ると割れてしまうため、内側をくり抜くことが多いのですが、割矧造では一度仏像をある程度製作してから像を割り、内側をくり抜いてから再びはぎ合わせて作られたものです。

(3) 四国八十八ヶ所 第66番 雲辺寺(うんぺんじ) 御詠歌

はるばると雲のほとりの寺に来て 月日を今は麓にぞ見る

四国八十八ヶ所 第66番 真言宗御室派 巨龍山(きょごうざん) 千手院 雲辺寺(うんぺんじ)

(4) 東葛印旛大師・下総国三十三ヶ所観音霊場

東光院は、東葛印旛大師第66番札所、また、下総国三十三ヶ所観音霊場第7番札所。